

団体名 渡名喜村立渡名喜小学校	連絡先 TEL : 098-989-2005 Email tonaki-syou@tonaki.ed.jp
---------------------------	--

1 実践事項（特色ある取り組み）

タイトル：「自立した学習者の育成に向けた渡名喜っ子の取組」

2 実践内容

(1) 「渡名喜っ子学びのサイクル」における自学自習力の育成

本校では、「渡名喜っ子学びのサイクル」として、下図1のように「授業と連動した宿題」「確認問題・形成テストの実施」などを通して、学習内容の定着を図ってきた。しかし、児童の学習に向かう姿を見ると、自分の課題や興味・関心などに応じて、主体的に計画し、学習に取り組む力が弱いという課題が見られる。

そこで今年度は、「授業と連動した家庭学習」に着目し、「自らの学習状況を把握し、自分の興味や課題に応じて計画的に家庭学習に取り組む児童の姿」を目指し取組を行った。

<取組の内容>

① 職員間での目指す児童像の共有

・まず小学部職員間で、自ら計画を立て家庭学習に取り組む児童を目指すことを確認し方向性を揃えた。また、各発達段階でどのような取組ができるかを話し合った。

② 各学年に応じた取組

・学年の実態に応じた取組から開始した。

(低学年の取組)

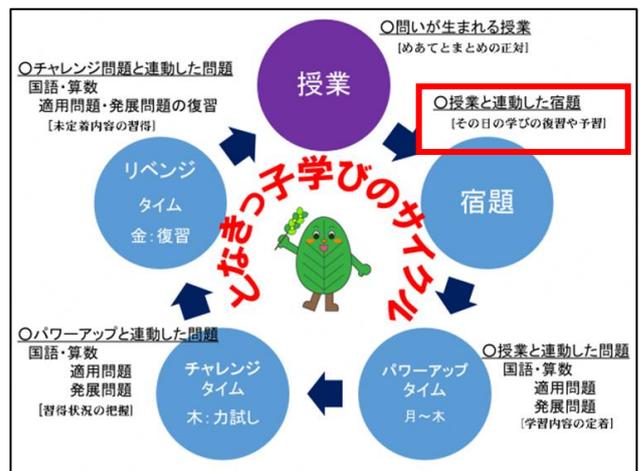
○家庭学習の内容は、一日の学習を教師と共に振り返りながら、自分が興味を持ったことや間違えてしまったことなどを想起させ、そこから自分が取り組んでみたいことを決めさせている。また、必要に応じて、担任からの宿題も与えている。

(高学年の取組)

○低学年同様、帰りの会などで一日の学習を振り返り、家庭学習の内容を自分で決めさせている。必要に応じて、担任が与える宿題もある。AIドリル（すららドリル）を使って、学習内容や学習時間を自分で設定することもある。

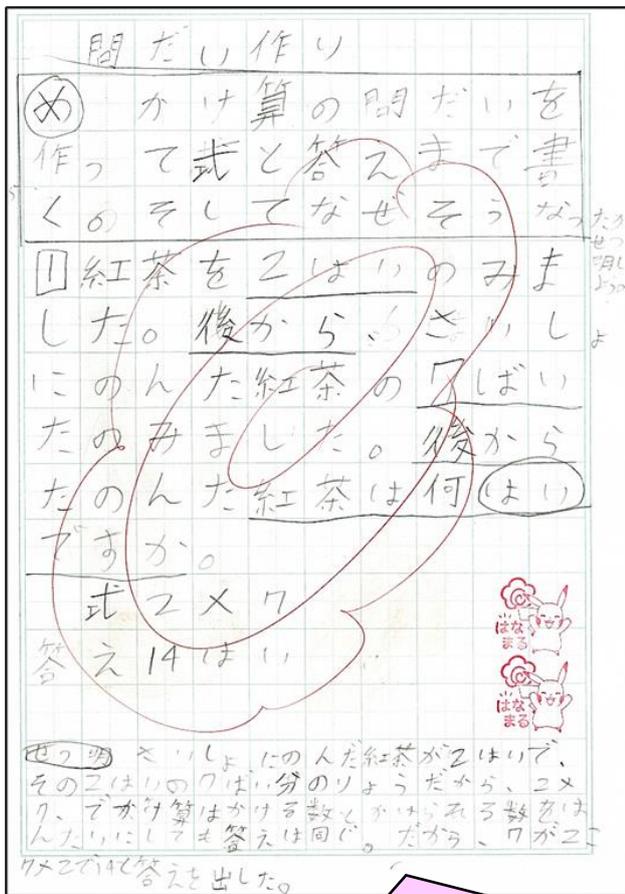
(2) ICTの活用等による個に応じた学びの取組

- ・GoogleアプリのClassroom、Jamboard、スライド、フォームなどを活用し、課題について自分の考えをまとめたり、他者と考えを共有し伝えたりする取組。
- ・タブレットやAIドリル等を活用し、家庭学習における発展的な学習や補充的な学習の充実を図る取組。



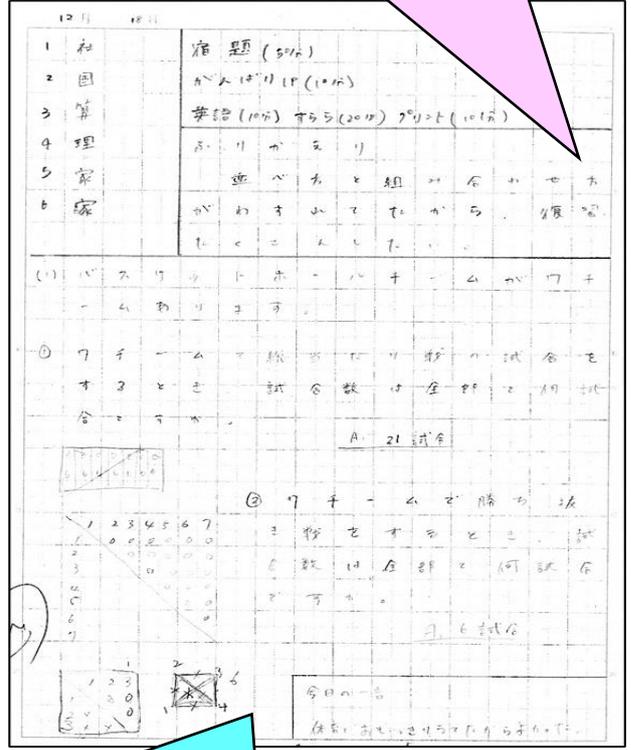
3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

(1) 自分で家庭学習を計画して取り組んだ児童のノートの一例



算数の授業で間違えた問題について、家庭学習で自分で問題をつかって再度解き直した児童のノート

自分の学習を振り返って、「並べ方と組み合わせ方をわすれていた」と気づく振り返りの記述



自分が忘れていた学習内容を復習している家庭学習

(2) ICT の活用等による個に応じた学びの様子

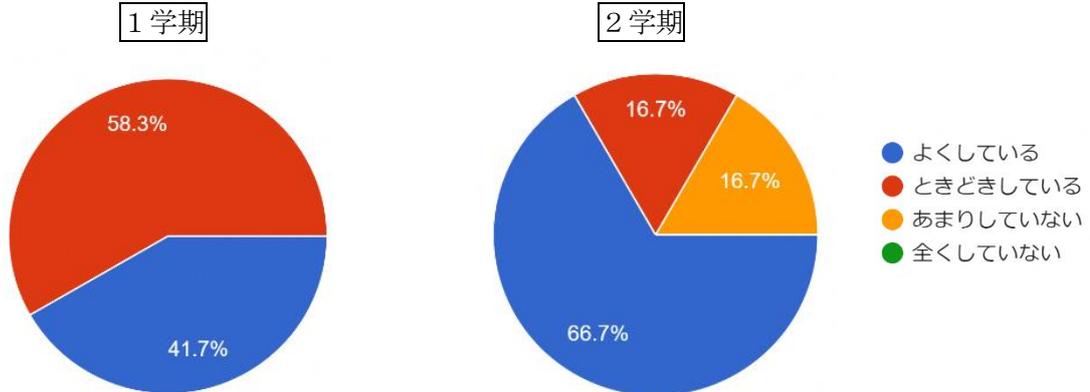


4 成果

(1) 自学自習力の育成に向けた取組について

児童の変容（校内学習状況アンケートより）

質問事項 家庭において自分で計画をたてて勉強していますか。



○小学部全体として1学期と2学期を比べると、家庭学習において計画を立てて勉強している児童が41.7%から66.7%と増加した。一日の授業を振り返り、「できなかったこと」や「もっとできるようになりたいと思ったこと」「興味をもったこと」などを家庭で学習する様子が見られるようになった。

また、低学年では、教師から与えられた宿題だけでなく、自分の興味に応じて家庭学習の内容を考え始めている児童の姿が見られた。自分でテストに向けて漢字練習をしてきたり、計算問題を作ってきたりする子が出てきた。高学年においては、算数の理解が不十分な単元など、自分の課題に応じて家庭学習を決めたり、タブレットを持ち帰り、「すらら」ドリルを活用して計画的に学習する児童が増えてきた。

(2) ICTの活用等による個に応じた学びについて

○ICTを活用するようになってから「調べたことをノートにメモする」から「調べたことをアプリに記録する」というように児童の学習形態が変わってきた。記録した資料をすぐに発表資料へと活用するなど学習活動がスピーディ且つ充実したものになってきている。

○復習そして予習を行ったり、わからないことは友達とチャット機能を使って学び合ったりする姿も見られた。

5 課題

●自学自習力の育成については、低学年では現在、教師と一緒に振り返りながら家庭学習の内容を決めているが、今後は一人で振り返り、家庭学習内容を決めることができるように支援していく必要がある。また、高学年においては、家庭学習の量や内容の充実を図っていけるようにする必要がある。